

# 積算数量から排出CO<sub>2</sub>算出

## 連携機能で効率化と業務拡大

### 日積サーベイ『HEΛIOS』 住友林業『One Click LCA』

日積サーベイのBIM対応積算ソフト『HEΛIOS』と、住友林業の建物用CO<sub>2</sub>見える化ソフト『One Click LCA』が連携する。積算の工事内訳書データからCO<sub>2</sub>排出量の算出が可能になり、建設コストと環境性能を円滑に導くBIM連携の枠組みとして注目を集めそうだ。両ソフトの連携は12月にリリースする最新版HEΛIOS2025の新機能として実装される。日積サーベイの生島淳平執行役員東京建築コスト部課長と、住友林業の谷口久章DX・LCA推進グループシニアリーダーに連携の効果を聞いた。

両社の出会いは、日本建築積算協会の国際委員会が催したOne Click LCAのデモンストレーションがきっかけとなった。生島氏は「HEΛIOSとの相性の良さ」を感じ、谷口氏は「One Click LCAユーザーにとっては資材数量の把握が手間であったが、HEΛIOSデータを使って算定できれば、大幅な作業の効率化につながる」との思いを抱いた。One Click LCAはBIMソフト『Revit』や『Archicad』とのプラグイン連携が実現しており、「HEΛIOSとの連携Σ2025の新機能として搭載する」と決めた。

#### 12月に新機能搭載

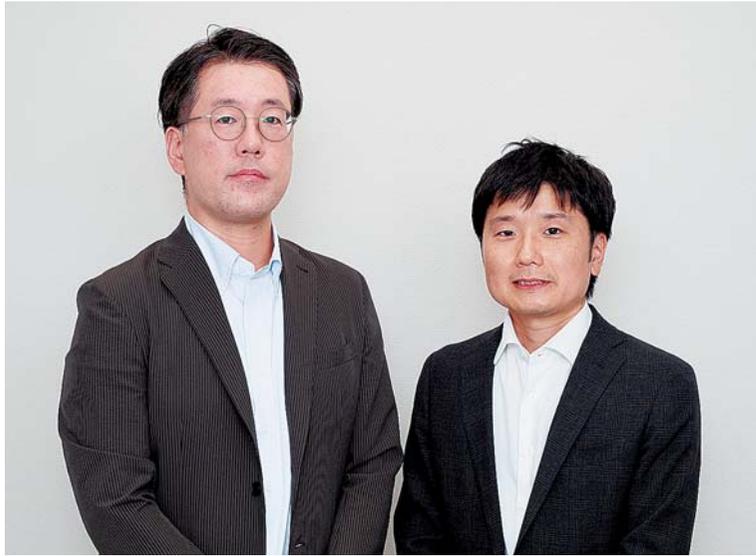
現在のCO<sub>2</sub>排出量算定は、資材数量を一つひとつ積み上げ、それを基に計算している。谷口氏は「One Click LCAユーザーにとっては資材数量の把握が手間であったが、HEΛIOSデータを使って算定できれば、大幅な作業の効率化につながる」との思いを抱いた。One Click LCAはBIMソフト『Revit』や『Archicad』とのプラグイン連携が実現しており、「HEΛIOSとの連携Σ2025の新機能として搭載する」と決めた。

両社が合意し、日積サーベイが開発に着手したのは2023年12月。HEΛIOSの見積書機能から出力した工事内訳の数量を専用コードに置き換え、中間ファイルを紹介してOne Click LCA側にインポートできるようにプログラムを改良してきた。既に開発は完了し、12月にリリースするHEΛIOS2025の新機能として搭載することを決めた。

「この連携はユーザーにとって大きなインパクトをもたらす」と両氏は強調する。HEΛIOSユーザーはゼネコンを筆頭に積算事務所や建築設計事務所も数多くが導入し、One Click LCAも大手・準大手ゼネコンに加え、建築設計事務所の導入割合が高い。「ユーザーの層が一致している点でも、積算とCO<sub>2</sub>算出の両面から連携効果を発揮できる」と付け加える。

住友林業が日本での販売代理契約を結んだのは22年1月。日本国内では建築物のZEB化などを背景に建物ライフサイクルを通じたCO<sub>2</sub>排出量の削減や見える化の要求が拡大している。谷口氏は「国内外の企業や投資家による建物評価指標ツールとしてもOne Click LCAの需要は高まりを見ている」と強調する。

日積サーベイが手掛けている



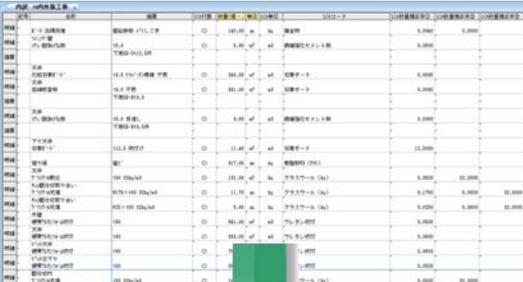
生島氏(左)と谷口氏



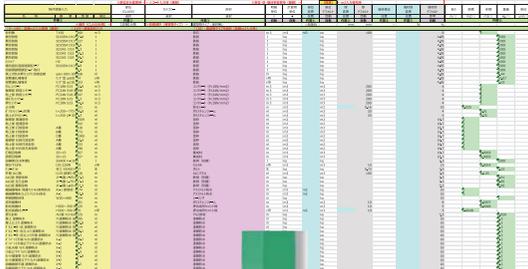
HEΛIOSによる数量算出



明細上でOne Click LCAコードに仕分け



One Click LCA取込フォーマットにボタン一つで連携



One Click LCAでCO<sub>2</sub>見える化



#### BIM積算後押し

住友林業が日本での販売代理契約を結んだのは22年1月。日本国内では建築物のZEB化などを背景に建物ライフサイクルを通じたCO<sub>2</sub>排出量の削減や見える化の要求が拡大している。谷口氏は「国内外の企業や投資家による建物評価指標ツールとしてもOne Click LCAの需要は高まりを見ている」と強調する。

両社の連携には、BIM積算の流れを後押しする期待もある。BIMデータを使って積算をを行う場合、資材の細かな情報まで盛り込まれていなければ円滑な連携はできない。これはCO<sub>2</sub>排出量の算定も同様だ。BIMデータをきちんと構築することで、そのデータが積算やCO<sub>2</sub>排出量算定のベースになる。両氏は「足りない資材情報を補足する必要がないように、設計段階でBIMに情報を付加していくことが何よりも大切」と強調する。

日積サーベイは10月に開くHEΛIOS2025のバージョンアップ説明会の中で、システム連携の概要を公開する予定だ。

HEΛIOSとOne Click LCAにおける連携の流れ

